

「南海化学様、各関連会社 NM ソルト様の会社見学に行かせて頂きました。」



※左から社長、安井さん、黒松さん、牧野さん



3月2日に和歌山の南海化学様の工場を見学させて頂きました。その関連会社にNMソルトという会社があります。南海化学と三井物産が出資してできた会社です。ソルトという会社名の通り、塩を作っている会社。なかなか生産工程なんか見る事が無いので想像できる人も少ないように感じます。

塩は日本の海水から取るのではなく、NMソルト様はオーストラリアのシャークベイ塩田(世界遺産)から輸入船で運ばれてきます。その置き場所の土地はまるで雪山です。(写真①)スキー服のCMやポスターの撮影でこの塩山が使われるくらい、見た目は本当に雪山です。

日本国内の塩の年間需要は、約700万トン。内訳は、約580万トンが苛性ソーダ、約170万トンが業務用、食卓用は10万トン。なぜ2014年にNMソルトさんは和歌山のこの場所に設立させたかという、和歌山の梅干しに注目しての事です。最近和歌山梅干しが美味しいのは、このNMソルト様の技術が多く取り入れられているからかも知れない。いろいろな種類がごさいます。(写真②)

今治の「伯方の塩」は海外の塩を一旦溶かし、濾過して固めることで作っているが、NMソルト様の塩の表面を飽和塩水で洗う洗滌(せんでき)処理をし、特徴を持たしている。工場を一通り見せて頂きました。ありがとうございました。塩も自社の特徴を生かす事で美味しくもなるという今の時代に合った生産、販売方法を採用されている事に感心しました。

今後軟質PVCも塩のさじ加減、製造方法でもっと変わっていくかもなんて思ってしまったたりする単純な私でした。 黒松康郎

『日中の結婚式に出席』

森 直樹(代表取締役社長)



中国四川省、成都へ出張し、数日間都市部の様子を観察してきました。率直な感想としては、豊かさという点においては全く差が無いと感じました。ここという豊かさとは物質的な面についてです。もちろん、中国は広い国土と多くの人口を抱えており、あくまで先端の一部分を取り上げてみた話です。日本で手に入るものは中国でも同様に入手可能であり、日本で売られているブランド・ファストファッションも中国でも同様に展開しています。

今回の出張では主に合弁先企業御子息の結婚式に出席するという目的があり現代中国の結婚式事情が理解できました。この出張の一週間前には、社内でもめでたく結婚式を挙げた方がおり、日中の結婚式の進行の違いが改めて見てとれる形となりました。中国の披露宴では会場に到着した来客に歓迎と縁起物であるタバコとアメを渡します。また、日本とは違い余興やスピーチは最小限で、新郎新婦・またその両親は各テーブルを周り乾杯を繰返し、来客との交流を重視されていると感じました。確かに来客が増える毎に個別に話をすることが難しくなりますし、遠方からの来客にとっては主役である新郎新婦との交流は何にも替えがたい貴重なものでしょう。

式自体の明確な「お開き」というものはアナウンスされず、宴の最中でも不要となった音響機材などはどんな片付けられています。時間を決めずに好きなタイミングで帰る事ができるというのは出席する側にとっては気楽かもしれせん。各国で事情は違えど、結婚式は何回出ても嬉しいものがあります。またいつか中国の結婚式に出る機会があれば、どのような変化があるか楽しみです。



みしまる君

牧野 光昌（企画営業部）



今年の3月末に娘夫婦が静岡県三島市から愛知県の武豊町に引っ越ししました。武豊町は知多半島の東岸に位置し、名古屋市にも近い港町で、「たけとよ」と読みます。三島市より随分近くなり妻は喜んでいきます。ただし、今回の題材は武豊町ではなく、同じ中部地方でありながら伊豆半島の根元に位置し、ほぼ関東圏と感じてしまう人口11万人の町、三島市についてです。

4年前、娘夫婦が三島市に引越した際には、三島市に関する知識は全くない状態でしたが、家の窓を開けると目の前に広がる富士山の雄大な姿にとっても感動したものでした。市内には1万数千年前に富士山の噴火で流出した三島溶岩で出来た庭園のある『楽寿園』や全長が約1.2kmと日本で最も短い一級河川である『柿田川』など、富士山の雪解け水や溶岩で浄化された雨水などの綺麗な湧水が溢れ出て、美しい水群を作っています。そんな場所が町中に多々ある自然豊かな所でした。また数年前に世界遺産に登録された『葦山反射炉』が近くにあり、登録されて数日後に今ならすいているだろうと思っただけで訪れました。その時は殺風景な所でしたが、今は駐車場も整備され、ガイダンスセンターや土産物売り場、レストランなどが出来て、世界遺産らしくなっています。この反射炉で作った西洋式大砲を品川台場に設置してペリー艦隊を迎撃する予定であったが、ペリーの二度目の来航が早く、お台場の砲台も不十分で、洋式大砲も間に合わなかったが、第六台場島まで出来ていた品川を見て、ペリーは用心の為に横浜付近まで引返したそうなので、この計画は役にたったのだと思えました。自然も歴史も盛り沢山の三島市が、この4年間で好きになりました。そして三島市のゆるキャラ『みしまるくん』が少しかわいく思えてきた矢先でしたので、少し残念です。ちなみに武豊町のゆるキャラは浦島太郎伝説からの『たろうくん』と『ひめちゃん』というインパクトの全く無いキャラクターです。『路上キス伝説の武豊くん』の方がインパクトありそうだけだなあ。



仮想通貨

加藤 雅昭（営業部）



今世間では億り人が何人いるとか、 1000 億円の不正流出したとかいろいろにざわぜわしている。しかしまだまだ仮想通貨って何？って人がまだまだ多いかと思えます。私が初めてビットコインなるものを知った2010年頃、当時はだれも見向きもせず通貨はやっぱ金本位制だぜ。などと話していたのを思い出します。しかし友人は1万くらいなら買ったのを覚えていました。仲間内からはやりものに飛びつく金失いなやつとか言っていました。今となれば十数億円に代わっているんですね。彼はどこにいったんだろう・・・日本では投資目的が多い感じになっていますが、本来は海外に持ち出せる金額は決まっていますが、仮想通貨なら現地でのネット決済だけでOKとなります。このようなビットコインの基本安全を担うのがブロックチェーン。2008年10月にサトシ・ナカモトと名乗る人（グループ）がブロックチェーン論文を発表しました。そこに書かれていたのは「ビットコイン」と呼ばれる暗号通貨を使ったP2P方式の全く新しい電子通貨の概要でした。これは・中央管理者がない・誰もが参加可能・高度なセキュリティネットワーク上の取引を記録し、みんなで保管・監視するシステムだそうです。理系の娘に説明を聞くが・・・なんじゃそりや取引する全員がネットつながり監視しあうそう。とにかく安全らしい、もう少し勉強しないと理解は無理かも。しかし売買は思ったより簡単。しかしいままら投資する余裕もないしな。ところが楽天が「楽天コイン」を発行すると発表した。これにより仮想通貨はより身近な存在になってくると思われ。現在カード支払いをすると手数料は約5%発生してしまい、売る側にはとりっぱぐれはありませんが、粗利は減ってしまいます。ところが仮想通貨は第三者（カード会社等）を介さない直取引で、手数料も1%くらいとなればそちらに流れていくのではと考えられます。当然カード会社は厳しい時代になってくるのかな。時代は早く流れていきます。あと数年で還暦、しかしぼくとしていれませぬ。いろんなことにアンテナを張り、ボケないようにするには。本日尊敬するホーキング博士がなくなりました。「ほかの太陽系を探索すべきときが来ています。外へと広がることこそが、われわれを、われわれ自身から救う唯一の手段です。わたしは人類が地球を離れる必要があると確信します」資源・環境等々、とても重い言葉に感じます。ご冥福を願うとともにもう一度博士の本を読みなおしたいと思いました。

マザーソルト

山口 和也（製造部）

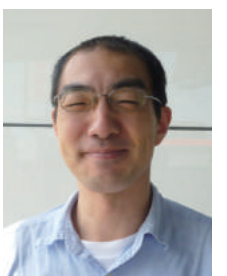


先日、ある少年野球教室へ自分のチームの小学校6年生4人と参加して来ました。その中で、子供の肘のメディカルチェックがあり、エコー診断など一通り終わったあとで、身長を伸ばすための体質改善として、食生活の話から「マザーソルト」という塩の紹介をされました。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、このマザーソルトは生命に満ちた満潮時の深層海水だけを陶器に敷きつめた塩田に引き込み、太陽の光と自然の風のみで自然結晶させ一年間熟成させたものです。私たちの健康に必要な70種類以上のミネラルが損なわれることなく、しかもバランス良く含まれている塩だそうです。効果はいろいろとあるらしく、「ご飯を炊くときに一つまみ（微量）を入れると光沢と甘味が増す。天ぷら油に少量入れると油が酸化しにくく、美味しい天ぷらに。お風呂に大きじ1杯入れると体のしんまで温まり、湯冷めもしにくくなる。人工海水をつくり、野菜・肉・魚を浸すと農薬、抗生物質、ホルモン剤などが流れ出し、食味も向上する。適量を水に入れるとミネラルウォーターとして飲用できる。アトピーや花粉症が改善される等々などだそうです。お試しで、少々いただきたいのでご飯を炊く時に使用しています。まだ、始めたばかりなので効果のほどは、わかりませんが・・・興味がある方は一度試してみたいかがでしょうか。ものは試しで、花粉症で苦しんでいる息子に奨めてみようかと思えます。



スポーツ観戦

松井 宣和（製造部）



四年に一度の大会第23回オリンピック平昌冬季競技が終わり日本のメダル数は合計13個でした。金メダル4個・銀メダル5個・銅メダルが4個で大会を終えました。過去最高は10個で一九九八年長野オリンピックで今回の大会でメダル数更新しました。中でもスケート陣の活躍が目立った大会だと思います。怪我をしてからの復帰で期待よりも足の不安のほうが大きかった羽生結弦選手ショートもフリーも見事に滑り切り「オーやったー」執念で転ばなかったのだなと思いました。逆にフリーで最初ジャンプを転んだのが宇野昌磨選手で転んで吹っ切れたのか？そのあとはパーフェクト演技で、見事に銀メダルで素晴らしかったです。女子マススタート初めて見ましたがリンクを16周スピードスケートなのに最初の1周目はゆっくり走る？最初の周回は加速禁止というルールがあります。私から言わせれば競争競馬かなと思いました。最初にゴールした人が優勝で、レース展開・駆け引き・戦略などが最後まで何が起こるか分からないのが面白いとこかなと思いました。

今年は他にも大きな大会があります。四年に一度サッカーワールドカップロシア大会です。日本はグループリーグH組初戦（6月19日21時）南米代表コロンビアです。前回大会では1対4と負けていて今回日本がどこまで強くなったか見てみたいです。2戦目セネガル、3戦目ポーランドです。日本はすべて格上のチームばかりですがグループ戦を勝ち抜いてイングランドかベルギーに勝って過去最高のベスト8を目指して活躍してほしいです。さらに来年はラクビーのワールドカップが日本開催です、こちらも楽しみにしています。

HUGつとプリキュア

大石 耕平 (東京オフィス)



プリキュアってご存知ですか? 2004年の「ふたりはプリキュア」から10年以上も続くシリーズの女兒向けアニメです。娘が3歳なりついにこの「プリキュア」の存在に気が付いてしまった昨今、私も一緒に視ることが増えてきました。今年の2月から始まった新シリーズが「HUGつと!プリキュア」です。「ほまれ、キュアエトワールに変身」に2話を費やした第4話、5話はとにかく「人間関係」を濃密に描かれていました。心に傷のあるほまれちゃんをほなちゃんに応援するも拒否される。(4話) ただただほまれちゃんと友達になりたいと願うはなちゃんとさあやちゃん。そして応援する事の難しさを実感するのはなちゃん。(5話) そんな時の、ハリハムハリーの台詞。

「十分がんばつとるヤツに、がんばれいっうんは酷やで」

これを女兒向けアニメで言及するのは、結構面白い事だと思います。「フレフレ!みんな」ってみんなを応援するプリキュア「キュアエール」に対して「応援する事の難しさ」を説いているのです。ただ「応援する事は良い事」と女兒に伝えるだけではなく、きちんと「応援の裏に潜む危うさ」までをも描いている。みんな頑張っているのです。頑張っている人に「頑張れ」というのは「自分はまだ頑張っていないのじゃないか!」ってなりますよね。大人の世界では結構浸透してきている考えですが(うつ病患者さんにも「がんばれ」は禁句だっ

てよく言います。)それを日曜の朝女兒に向けて言うのは、凄い企画制作だと思います。「応援は良い事、みんな元気になる」って事だけを言っておいた方が耳障りは良いし、製作も楽です。しかしそこをあえて「フレフレ!みんな」って応援するキャラを使ってマイナス面に言及しているのです。「応援」は上辺だけでは相手の心に届かない。「相手の事を考えて初めて、応援は相手に届くものになる」ってのを子供達へと伝えていけるのです。ほなちゃんが「突っ走って引かれる」ことを自覚しているのも、新しい発見でした。あの娘はあの娘で「引かれるかもしれない」事を承知の上で、ずっとみんなを応援してました。3人のプリキュアが「私にできないことがあなたにはできます。あなたにできないことが私にはできます」と「それぞれに無い所を補いあう」事で仲良くなり強くなる。という帰結も秀逸です。また第1話から登場する、ハリハムハリーという妖精。イケメンかつ、育児もやりつつ、親への評判も良く、プリキュア3人にきちんと目を配り、大人な助言もでき、怪物が現れると即座に現場に駆け付ける。有能すぎるくらいに有能です。男性キャラの分析の結、嫌われない「最適」なのでしょうね。やるぜハリー。今年のプリキュアは、特にすごいなあって思います。しばらく娘と一緒に楽しめそうですね。

スキー

野間 秋子 (森松産業)



我が家は年に1、2回スキーに行きます。私が若い頃はスキーが大ブームで、毎週のように行っていました。初めは、小さい頃から連れて行っていました。初めて、その遊びが出来た旭高原元村という山の自然体験施設へ行ってスキーをしました。子供たちが大きく本格的なスキーを教えるため、岐阜や長野のスキー場へ行くようになりました。初めはスキーを教えるようになってから、実践の基礎をしっかりと学びました。何度か上手に滑るようになって、後には実際に基礎をしっかりと学びました。何度か上手に滑るようになって、途中でスキー板を投げ捨てられるか、へ行ってしまっても途中でスキー板を投げ捨てられるか、へ行ってしまっても、スキーは難なく滑り降りるので、スキーをしないという人も少なくありません。今ではスキーをしない人も減り、毎日利用している人も増えています。スキーは、運動上手の子に徹して、家族みんなが楽しめるようにしたいと思います。

